

令和元年度 第1回社会教育委員会議 概要

日 時： 令和元年5月21日（火）午後2時30分～4時30分

場 所： 逗子市役所5階 第6会議室

出 席： 角田委員（議長）、津留崎委員（副議長）、長坂委員、桑原委員、堀江委員、
佐藤委員、山田委員、東委員

欠 席： 松井委員、吉川委員

事務局： 社会教育課 橋本課長、黒川係長、匂坂、中村、内山（記録者）

傍聴者： なし

資 料：

- 1 逗子市教育委員会行政機構図
- 2 教育委員会定例会会議録（平成31年1月）
- 3 令和元年度社会教育委員会議年間予定表
- 4 社会教育推進プラン進行管理資料
- 5 令和元年度社会教育課主催講座実施計画
- 6 平成30年度第5回社会教育委員会議概要

- ・平成30年度 逗子の教育（逗子市教育委員会）
- ・逗子市教育大綱
- ・平成30年度 逗子市開催講座一覧

●開会

●教育部村松次長 挨拶

●資料確認

●報告事項（１）教育委員会人事異動について

○事：資料１参照。療育教育総合センター、学校教育課などで異動があった。

●報告事項（２）県社会教育委員連絡協議会理事会（４/１８）について

○委：６月に開催される総会の議案の確認。役員人事については、会長は鈴木眞理氏で変わらず、副会長は相模原市、秦野市、中井町より選出。予算に関しては、全国社会教育委員連合の会費が県のみ７万円から１０万円に値上げとなる。逗子市は変更なし。その他事業計画や年間予定についてなど。

●報告事項（３）教育委員会定例会について

○事：資料２参照。

●報告事項（４）まちづくりネットワーク会議（４/１３）について

○委：市政方針、予算に関する説明、住民自治協議会の取り組みについての説明、グループでの意見交換等。

●議題（１）令和元年度社会教育委員会年間予定について

○県社教連関係 出席予定者

総会（６月２８日）： 角田議長、山田委員

研修会（８月２６日）： 津留崎委員、長坂委員、松井委員

地区研究会 小田原（１１月１４日）： 桑原委員、佐藤委員

地区研究会 厚木（２月１９日）： 東委員、堀江委員

○社会教育委員会議予定： 第２回：６月１８日（火）、第３回：９月１７日（火）、
第４回：１１月２６日（火）、第５回：３月３日（火）

●議題（２）社会教育推進プランの進行管理について

- 事：資料４説明。昨年度の評価に加え、４年単位の評価を行う。目標に対しての達成度を評価していただきたい。
- 委：実態がわからないなかで評価しなくてはならないことも多かったが、整理されてわかりやすくなった。また、新たな取り組みが行われていることも全体を通じてうかがえる。
- 委：目標に対して達成度を評価するということだが、「講座を５回開催する」という目標があり、それができないというのは不測の事態が起こらない限りあり得ない。実施回数だけで評価するのは常識的でないと感じる。それをいかによりよく実施できたかが重要であり、そこに評価の意味がある。回数だけ達成したのでは、予算を消化したに過ぎない。
- 事：あり方についてはその通りと考える。内容的なことについては、個別事業においてご意見をいただければと思う。
- 事：講座を開催する意図などを、社会教育委員会議のなかでもんで事業化するというプロセスがこれまでなかったもので、それを導入することをこの２年間でやってきた。事業の進捗を評価するにあたっては、数値化や客観的な指標が必要とされる中で、ある面で形骸化したスコアがある。一方、内容については当然ながらひとつひとつ議論され評価される必要があると考えている。参加者が何に気づき、何に発展していったかは個別に追跡しないとわからないので、行政では把握しがたい。社会教育の成果や評価はスコアで表しにくいところではある。
- 委：もともとプランの作成をした際に、評価をどのように行うのかも議論した。委員がすべての講座に参加するのは現実的ではないので、評価の参考となるようなアンケート形式を作成した。
- 委：資料にじっくり目を通したうえで、参加者の反響を感じ取り、プランの評価を考えると、社会教育委員であることを最も実感できるもの。それを会議で発言し、また他の委員の発言を聞くことで、触発されてさらに気づきを得ることができる。
- 事：次回会議で、評価のご意見をいただくこととしたい。それに際し、事業について補足の説明を加えたい。文化財保存活用事業は、国の予算が相当減額された中で、遅れ気味な

がら予定の範囲に収まりそうだ。名越切通の整備は、崖崩れのため年度を跨いでの課題がある。古墳整備事業は順調。各種講座事業・地域課題はNPO法人逗子まちなかアカデミーに委託してのサードエイジ連続講座が4年目を終え、受講者が企画側にまわるというサイクルができつつあり、人づくり地域づくりに向け動いている。また、フィールドワークなど本編以外の講座をまちなかアカデミーが自主的に設けるなど、受講者のフォローアップをしており、広がりや成果があると感じている。家庭教育講座は、好評だった星山麻木先生の連続講座初級が障がい福祉課に移管になったが、プランの意図していることが達成されているので、評価に含めている。また講座実施にあたり、応援のための辞令を受けた社会教育課職員が運営に関わった。各種講座事業・地域活動では、パソコン講座を今年度からとりやめ、現代的課題等の方に力を入れている。出張講座では、世代間交流をめざして企画・運営をしている。今年度は関東学院大学の土谷みち子教授に、家庭教育の6回連続講座をプロデュースしていただいているが、昨年度はその布石として各種講座事業・現代的課題で1講座をご担当いただき好評であった。

4年ごとの個別計画進行管理総括表の「目標4：市指定文化財の数が増加している」が評価(b)「概ね順調であるとみなせる」となっているのは、緊急財政対策により新規指定の予算要求ができなかったため。「目標6：文化財収蔵庫が設置され遺物が適正に保管されている」も評価(b)であるが、池子に建設予定だった収蔵庫が、緊急財政対策に加え、米軍から恒常的施設の建設許可が下りないことで棚上げとなっているため。現在の持田収蔵庫の建物を補強することで、今後10年収蔵可能となるようにしている。また目標7の図書館の事業の評価は、こちらで審議するよう企画課からの指示があったもの。

- 事：出張講座では、好評のマジック教室でメインの講師以外に3名のスタッフが参加して講座を盛り上げてくださっているが、報酬も一定額なのでほぼボランティアに近い形である。昨年度最も参加者数が多かったのはズンバ教室の37名(定員30名)で、初めて開催したが、市民の方も多趣味になっており、掘り起こすことで参加者も増えるという印象である。今年度は市長からの年配の方を元気にしていこうという話もあり、講座を入れ替えながら実施していきたい。
- 委：逗子市での開催講座についてとりまとめていただき評価したい。講座一覧を作成して感じたことなどあれば伺いたい。
- 事：他でやっていることと同じではなく、勉強しながら独自の切り口でしていきたい。講座に参加したいと感じている人が地域には多くおり、出張講座もとても大切だと感じている。また、春の市長ヒアリングで、元気な高齢者をつくる講座を共催するようにとのこ

とだった。そのような講座はズシッブ連合会が高齢者センターで既に行っていると話したが、頂きはひとつでも上り口はいくらあっても良い、すでにやっている所に入れたい人も沢山おり、それを拾い上げることに目を向けて欲しいとのことだった。かぶることを恐れず社会教育課の切り口でやっていきたいと考える。

○事：今年度事業ではこれまで行ってこなかったこととして、学社連携で性的マイノリティの子どもたち理解の講座、社会学者の宮台真司先生の社会教育講座を開催する。学校の教員と市民を対象に、同じ場所で研修・講座を行う。また葉山の近代美術館の出前講座を開催することが決まっている。

●議題（3）平成30年度第5回社会教育委員会議録概要（案）について

○事：資料6参照。意見等あれば、今月末までに連絡いただきたい。

●閉会

委：は委員、事：は事務局が発言した内容。